

第15章 2. 国際対立の激化 a. ドイツの積極外交への転換

- ①ビスマルク外交(1871 ~ 90) [1 フランス]の孤立と勢力均衡による平和維持
とくにフランスと[2 ロシア]の接近を妨害する
1873 三帝外交=独、[3 ロシア]、[4 オーストリア]→のち三帝協商(1881)
1882 三国同盟=独・オーストリア・[5 イタリア]
- 1887 [6 ドイツロシア再保障条約]条約
- ②ドイツの工業化の進展→[7 植民地]要求の高まり→1890年[8 ビスマルク]退陣
↓
- ③1890 皇帝[9 ヴィルヘルム2世]親政開始…[10 新航路]外交の展開
→[11 植民地獲得]競争への積極参加
- 1)1890 [12 独露再保障]条約の更新を拒否→ロシアは[13 フランス]に接近
→1991 ~ 94[14 ロシアフランス(露仏)]同盟締結
- 2)[15 3B]政策…[16 オーストリア]と結び([17 パンゲルマン]主義)、バルカン半島、中近東方面への進出を図る→イギリスやロシアなど対立

3B政策…[18 ドイツ]の世界戦略。ベルリンから[19 オスマン]帝国領の[20 イスタンブール](ビザンティオン)[21 バグダード]をむすぶ鉄道の建設により[22 中近東]から[23 インド洋]方面への進出をめざした。

- 3)1905 1911[24 モロッコ]事件 フランス支配への介入・進出をはかる
 - ④イタリア…未回収のイタリアをめぐる[25 オーストリア]と対立→フランスに接近
- 19世紀後半ドイツは[26 ビスマルク]の指導により急速に強大化した。かれは[27 フランス]孤立策とロシアのとりこみ、各国の勢力均衡による平和政策を基本とする外交を展開した。しかし急速な工業化が進展すると国内では[28 植民地]獲得への要求が増大、ビスマルク外交は破綻、1890年かれはついに辞任した。かわって権力の座についた皇帝[29 ヴィルヘルム2世]は植民地獲得競争へ積極的参加をはかる政策を展開した。[30 3B]政策をとってバルカン半島、中近東方面への進出を図り、また[31 モロッコ]事件(1905年1911年)でフランスと対立した。こうした政策は他の国々の不安を増大させることになった。イギリスやロシア、オーストリア、フランスなどとの対立を激化させた。なおドイツに独露再保障条約の更新を拒否されたロシアは1891年には[32 ロシアフランス]同盟を締結、しだいにドイツとの対立関係をつくりだしていくことになる。

b. イギリスの3C政策

- [33 3C]政策の展開=アフリカ・[34 インド]を結ぶ勢力圏の確保をめざす
- ①アフリカ 縦断政策をとり、1898[35 ファシヨダ]事件で[36 フランス]と対立
→[37 ドイツ]への対抗上妥協→のち1904[38 イギリスフランス協商]締結
- ②中央アジア 南進政策を進める[39 ロシア]と対立(イラン・アフガニスタン)
- ③極東 朝鮮などへの進出をすすめ、ロシアと対立する[40 日本]に接近
→1902 [41 日本イギリス(日英)]同盟締結

ドイツの勢力伸長にたいしイギリスはアフリカとインドをむすぶ広大な植民地の維持を図る[42 3C]政策をとった。この政策のなかでも多くの対立関係がつくりだされた。アフリカでは、[43 南アフリカ]戦争を起したり(1899 ~ 1902)、横断政策を取る[44 フランス]と対立して[45 ファシヨダ]事件(1898)も発生した。アジアで[46 ロシア]と対立、1902年[47 日英]同盟を締結した。

c. ロシアの南進政策と日露戦争

- ①A)[48 バルカン]半島方面→[49 オーストリア][50 ドイツ](+オスマン帝国)と対立
1)極東・中近東方面→[51 イギリス][52 日本]と対立
- ②1878 ベルリン会議によりA)の方向、挫折→極東・中近東へ
←ドイツ、フランスの支持、英、日との対立
- ③1904 ~ 05 [53 日露]戦争での敗北→再び[54 バルカン]半島進出へ
→国際的緊張の高まり(露←→独・[55 オーストリア])
- ④ドイツの勢力拡大に反対する[56 イギリス]に接近 1907[57 イギリスロシア(英露)協商]締結
- ⑤反ドイツ包囲網の成立=[58 三国協商]体制

三国協商=[59 露仏同盟][60 英仏協商][61 英露協商]

ロシアはベルリン会議(1878)以降南進策の方向を極東、中央アジアにむけ英、日と対立したが[62 日露]戦争(1904 ~ 05)で挫折した。こうして再び[63 バルカン]半島方面へ進出、ドイツ、オーストリアの[64 パンゲルマン]主義と対立した。そこでロシアはドイツの急速な発展に恐れを抱くイギリスとも接近、1907年には英露協商が締結され、1894年の[65 露仏]同盟、1904年の英仏協商とともに反ドイツ包囲網体制=[66 三国]協商体制が成立した。

d. バルカンの民族運動の複雑化

- ①1)ロシア…[67 パンスラヴ]主義を唱える=スラブ系民族を糾合
中心=[68 セルビア]など=「ゴスワ」主義をとく
- 2)オーストリア…ドイツと結び[69 パンゲルマン]主義をとえ、トルコ政府に接近
- ②1908[70 青年トルコ]革命発生→オーストリア、[71 ボスニア・ヘルツェゴヴィナ](オーストリアの保護国)を併合
↓
- ③[72 セルビア]、[73 ブルガリア]など四カ国、ロシアの影響下に[74 バルカン]同盟を結成→
イタリアトルコ戦争に乘じ、[75 オスマン帝国(トルコ)]を破る(第一次バルカン戦争)
↓ 1912
- ④獲得した領土をめぐる[76 ブルガリア]と、セルビアなどとの間で第二次バルカン戦争発生
↓
セルビアなどパンスラヴ主義=ロシア派の勝利 ←オーストリア巻き返しをはかる